

書面協議による審議会等の開催結果

1. 審議会等名

令和2年度第2回社会教育委員の会議

2. 書面協議とする理由

新型コロナウイルス感染拡大防止のため

3. 協議期間

令和2年3月10日から3月16日まで

4. 会議参加者

- (1) 委員長 木村 純 委員
- (2) 副委員長 大橋 修作 委員
- (3) 城野 文久 委員
- (4) 二上 朋子 委員
- (5) 林 一元 委員
- (6) 小笠原 英史 委員
- (7) 近藤 宏 委員
- (8) 納谷 眞智子 委員
- (9) 渡邊 真奈美 委員
- (10) 大内 さつき 委員
- (11) 船木 幸弘 委員
- (12) 永田 志津子 委員
- (13) 出口 寿久 委員
- (14) 高橋 美恵子 委員
- (15) 松本 史子 委員

5. 議 題

- (1) 令和2年度社会教育事業実施報告について
- (2) 令和3年度主要な社会教育事業の概要(案)について
- (3) 石狩市のコロナ禍のもとでのサークル・団体活動緊急調査の報告

6. 出された意見等

- (1) 令和2年度社会教育事業実施報告について
 - ・コロナ禍でありながら、できる限りの事業に取り組んでいただけたと思います。(出口

委員)

- ・オンラインでの開催が少数だったこと、中止された事業もあったこと、社会教育事業の実施・推進にとって、多くの課題を見せていただきました。(船木委員)
- ・コロナ禍のもとで感染予防対策をとりながら、中止または工夫して開催されていることがわかりました。(大橋委員)

(2) 令和3年度主要な社会教育事業の概要(案)について

- ・上記(1)の課題を踏まえて、新年度予算の中で工夫されていくことを期待しております。(船木委員)

(3) 石狩市のコロナ禍のもとでのサークル・団体活動緊急調査の報告

- ・現状と課題を整理いただき、今後取り組むべき方向性が明らかになったと思います。(出口委員)
- ・「コロナ禍であらためて気づいたこと」について記載されていましたが、私たち社会教育委員が、「そのことをサークルや団体の皆さんがどのように捉えて、今後どうされたいのか」を知り、どのような役割が果たせるのか、考えるきっかけをいただきました。(船木委員)
- ・高齢者ばかりでなく、子どもたちと係わる私どもの団体もまったく同じ状況です。感染の可能性と比べることのできない「今、生きている」実感を天秤に日々かけながら活動しています。(納谷委員)
- ・「コロナ禍のもとでのサークル活動が抱える問題」、「サークル活動を継続するための工夫について高齢者の社会的参加と社会教育をすすめる上での工夫について」は、大変よくわかりました。(大橋委員)

(4) その他

- ・コロナ禍の下でのサークル・団体活動状況のおまとめありがとうございます。顔を合わせお互いに元気であることを確認することが、それぞれの活動の原動力になっていたのと改めて感じております。シニアの団体活動に参加されていた個々の方々が、活動自粛の結果、現在どのようにされていらっしゃるのか、身体の活動量の低下や、意欲の低下に結びついていないか、大変気になっております。また、往復書簡なども有効ですがオンラインに親しんでおくこともこれからの時代には欠かせないことを実感いたしました。スマホをお持ちの方も多いかもかもしれません。画面越しでも笑顔を見られることは大きな安堵を与えてくれることと思います。事態が収拾しましたらぜひそのような講習はできたらよいのではと感じました。(永田委員)
- ・コロナ禍において、感染防止策をとり、事業ができたものもあり、良かったと思います。(城野委員)

7. 意見等の処理状況

すべての回答が妥当（付帯条件なし）であり、それを委員長が「石狩市社会教育委員の会議」としての意見と決定した。